

県外派遣報告書

審判員名	若林 哲	所属	中体連
大会名	平成27年度 関東高校男子バスケットボール大会		
期間	平成27年5月29日(金)～31日(日)		
会場	ひたちなか市総合運動公園体育館		
スケジュール			
期 日	内 容	場 所	
5月29日(金)	審判会議	ホテルクリスタルパレス会議室	
5月30日(土)	1回戦、準々決勝	ひたちなか市総合運動公園体育館	
5月31日(日)	準決勝、決勝	ひたちなか市総合運動公園体育館	
会議 講義 内容			
<p>審判会議において安西ブロック長より、関東ブロックは日本の中心であること、そして今回派遣されている審判員は今大会を成功させるために召集された者であり、各都県の審判長が自信を持って推薦された者であるとのお話があった。また試合に臨む上で欲を持って臨んで欲しい、ステップアップをするためには積み重ねが必要不可欠であるというお話があった。</p> <p>今回指名で派遣された渡邊諭氏と針生氏からは、ゲームの入り方、進め方、基準の作り方についてのレクチャーがあった。その中でプレゲームカンファレンスの大切さ、話す内容についてのお話があった。また基準の作り方については「判定基準を確立できているか」との問いかけがあり、そのプレイが最初に起こった時に基準を示すことが望ましいとのお話があった。またルールの適用をするためにシリンダーの概念、リーガル・ガーディング・ポジション、スクリーンの再確認をおこなった。その中で「ノーマル・バスケットボール・ポジションを外れた体の使い方は正当ではない」というお話があった。</p> <p>2日目には安西ブロック長のレクチャーが行われた。良いタイミングで良い位置取りをする努力を惜しまないことが審判員としての最低限のモチベーションであり、そのためには予測とバスケットの理解が必要不可欠とのお話があった。そしてその努力を繰り返すことで審判の4原則を実践していることにつながるというお話があった。</p>			
実技			
担当試合	期 日	2月7日(土)	男子 2回戦
	対戦カード	法政大学第二 VS 市立習志野	副審
	相手審判	梶 崇司氏(栃木県)	
ミーティング内容		主任	安藤俊明氏(千葉県)
<p>ゲーム序盤に体の使い方の基準を明確に示したことにより、ゲームが進むにつれて笛を入れるべきプレイが自然と減っていった。2人が共通の基準を示すことでプレイヤーもベンチもストレスを感じている様子はなかった。笛を入れるかどうかは別として、リバウンド時に手を巻いたり、不当な体の使い方をしていたことを「知っていた」か。情報としてそのような現象が起こっていたことを知っていて欲しい。</p>			
全体の感想			
<p>今回は2度目の高体連の関東行事派遣を頂きました。前回顔見知りになった方とも再会でき、とても嬉しい気持ちになりました。ゲームに関しては、大学時代から共に審判活動をおこなってきた仲間とゲームを担当することになりました。嬉しい気持ちもありましたが、パートナーは上級になっているということで悔しさも正直感じています。ゲームを運営する上でもっとゲームを掌握し、管理する必要があると強く感じました。基準作りはもちろん、Official Warningなど、もっともっとアンテナを張っていることを気にしなければいけないと思います。そしてプレイヤー、ベンチ、観客から信頼をされるような立ち居振る舞いももっともっと意識して改善しなければいけないと思います。判定については、パートナーの目の前であっても、パートナーが最初から捉えていないものや見えない面の触れ合いについては、自分がトレイルであっても、もっと踏み込んで判定に参加しなければいけないと思いました。今後はリードが確認できないプレイについては全てトレイルが責任を負うつもりでプレイを捉えるよう心掛けます。</p> <p>今大会において茨城県協会の方々には大変お世話になりました。この場を借りて御礼申し上げます。また派遣して頂いた埼玉県協会のためにも日頃から危機感を持ち、レベルアップ、ランクアップを目指して精進していきたいと思っております。ありがとうございました。</p>			